

「第9回 “本気” で語ろう会」 会議録

団体名	輝北子育てサロンてるぽっく
日時	平成26年10月23日（木）10時30分から正午まで
場所	輝北総合福祉センター
参加者	輝北子育てサロンてるぽっく：重田氏外10名 社会福祉協議会：2名
	市長、両副市長、市長公室長、輝北総合支所長、子育て支援課長、健康増進課長、輝北産業建設課長、広報広聴課長

1 乳幼児に対する各地域での健診や予防接種の実施について

提案：市町の合併前は健診や予防接種等を各地域で行っていたが、合併後しばらくしてから保健相談センターに集約され、輝北地域では実施されなくなった。

輝北から保健相談センターまで行くとなると、健診等の時間に子供がぐずらないように子供の調子を見ながらセンターにたどり着く。しかし、早い時間に順番が取れても、先生が来るのは13時半で、対象の乳幼児も多いのでなかなか終らず、センターのスタッフに相談しても、「一日のことだから」と言われる。

そこで、輝北外各地域でも健診等を実施できれば自分たちも大変助かるし、健診等が分散されることで保健相談センターでの対象者の待ち時間も削減されると思うので、ぜひ検討してほしい。

回答：合併後、乳幼児健診等が保健相談センターに集約されたのは、ある意味致し方ない流れかもしれないが、一方で、このことにより、小児科医等の専門の先生の健診を受けることができたり、色々な子が集まってくることで、自分の子の成長を再確認できるなどの利点もできた。

皆さんにとっての一番のネックは、健診会場までの距離と待ち時間だと思うが、健診は、先生方の昼の休憩時間を使ってお願いしているため、輝北での健診となると、病院の午後の診療時間に影響がある。

また、皆さんが、健診会場の保健相談センターでの待ち時間の対応は、何かしらの方法でできればよいと考えている。

回答（担当）：今、皆さんから話があったように、輝北から保健相談センターまで来るのが大変というのはよく分かる。知人に聞いたときも、「健診に時間がかかるので憂うつで、家に帰った後も夕食を作るのもいやになる。本当にひと仕事だ。」と言っていた。

健診のスタッフとしては、「来て良かった！」と言っていたような健診にすることを合言葉に対応しており、節目節目で小児科の専門医に見てもらえることをメリットに集団健診を実施している。

また、ある母親の話として、自分の子は家の中ではとても手のかかる子だと思っていたが、健診に来たとき、生まれたばかりの子が横で泣いていたら「よしよし」をしてあやした。これには本当にびっくりしたとの話があった。保健相談センターまで来ることは本当に大変だと思うが、子供の成長を確かめる機会として、ぜひ健診を受けてほしいし、お母さん同士の意見交換の場としても活用してほしい。

提案：上の子を連れて下の子の健診に行くと、上の子が退屈する。例えば、保育士さんにいてもらい子供を見てもらったり、始まるまで読み聞かせや遊びをしてもらえたら良いと思う。

回答：保健センターに絵本があるので、保育士などのスタッフをそろえて、健診会場に読み聞かせなどを行うスペースを確保するようにしたい。また、ふたば保育園の「子育て支援センター」のスタッフにも来てもらっているの、そのことをもっと周知するようにしたい。

回答：お母さんたちには、子供をたくさん生んでもらいたい。健診や子育てへの支援は大切であるので、健診会場での子供のあずかりを周知し、本の読み聞かせコーナーなどの設置をぜひ検討したい。

提案：そういった対策をしてもらっても、センターに行くまでが大変。特に雨の降る日などなおさら大変である。ぜひ、輝北でも健診を行ってほしいので、そのことを再度お伝えしたい。

回答：市町村合併の中で、健診等においても効率化を図ったということと併せて、病院の先生方のご理解とご協力が必要なことから、輝北での健診の実施について一存ではいけないが、皆さんからの声があったことは心に留めておきたい。

提案：保健相談センターに乳幼児健診に行ったとき、子供を連れて入れるトイレがないので、障害者用のトイレがあればよいと思う。

また、健診については、小児科で予約を取って小児科医に行けば、待ち時間は少なくてすむ。先ほどあった専門的な話や、周りの子供との違いは母子相談に行ったときでも分かる。今の、集団健診の方法でなくても健診が受けられるシステムがあれば、お母さんたちの負担も減るのではないか。

提案：ほとんどの乳幼児健診が集団健診なので、9～11か月児健診のように個別健診にしてほしい。

回答：トイレについては、「保健相談センター」には障害者用のトイレがあるので、そこにおむつ台やベビーベッドの設置を検討したい。

また、健診方法については、集団健診の良い面、個別健診の良い面がそれぞれあるが、集団健診では、母たちのふれあいがあり、3か月、7か月健診で個別健診を取り入れている自治体は少ない。集団健診での良い面を生かしつつ、待ち時間などの対策については考えたい。

提案：市の方にも一度子供を連れて、輝北から保健相談センターまで行くことを体験

していただきたいが、今、伺ったような対策をお願いできれば、少しは良くなると思う。

2 輝北地域への子育て支援施設の設置について

提案：「てるぽっく」は月に1回の活動を行っているが、本地域には、気軽に時間を気にせず行けるような、1日中開放されている子育て世代用の施設がない。

以前、志布志市の「志布志子育て支援センターはぐくみランド」を見学する機会があったが、保健師さんが数人配置され、母親たちも子供と一緒に遊んだり、保健師さんに子供を預けて母親同士の情報交換を行う等リラックスできる環境だった。

輝北地域でも、時間を気にせずに行ける場所がほしい。

回答：志布志市やさつま町に住んでいたときに、子育て世代用のとても良い施設があった。そういった場所があれば、そういうまちに住みたくなると思う。

輝北地域については、総合支所内にキッズルームがあるので、そこを常時開放して利用できるように考えている。また、毎日なのか週に1回なのかは検討しないといけないが、保育士さんなり子供を見られる人を配置して、皆さんで集いの広場的に使ってもらえればと考えている。

提案：総合支所内では、月曜から金曜だけの利用となるので、もうちょっと幅広く休日も使えるようになると、お父さんたちに子育てを体験してもらうことができる。

回答：鹿屋市内の集いの広場は、どこの広場も月曜日から金曜日までとなっているが、月に1回でも日曜日に総合支所を開けてもらって、そういう機会を作ってもらおうとよい。今も、第3土曜日は開けている。

回答：鹿屋市内の集いの広場は、「ひよこ」「りな」他、地区学習センター等があるが、サポーターはいないものの、施設自体は土日でも使える。また、西原にある児童センターも土日は開いているので、ぜひ利用してほしい。

提案：休みの日は、主人たちもゆっくりしたいだろうから、本当に近くにあってほしい。

回答：仕事の関係で土曜日が休みだったり、日曜日が休みだったり、人によって状況が違ってくると思うので、総合支所の開放についても、月によって土・日を分けたりするなど対応できると思う。この会をきっかけとして、日頃から総合支所等と意見交換をしてほしい。

提案：総合支所内のキッズルームは元が図書室であるため、マナー的に室内で食べ物を食べるわけにも行かず、総合支所の職員の仕事のじゃまにもなるので、同じような施設を、輝北総合福祉センター内にもおいてほしい。ここなら、土日もずっと開いている。

回答：占有は難しいと思うが、福祉センターの管理者と調整すれば、使うことはできるのではないか。

回答（センター長）：見守りのための職員を配置することは難しいが、施設内のスペース的には問題なく使用は可能である。

提案：総合支所に保健師さんがいないので、配置してほしい。

回答：保健師の配置は難しい。総合支所と本庁の連携を取ることで、総合支所に相談した際も時間を感じさせない対応を図ることとしたい。

提案：以前はいた保健師がいなくなるのは、大変である。総合支所に行っても、その場で解決できないことがある。

回答：総合支所は、あってもなくても変わらないと言われるといけない。市民目線で総合支所が対応できるように、みなさんの悩みに対応させていただきたい。

提案：私達の悩みを聞いてもらえるだけで、うれしい。

3 子供が2人いる場合の保育園入所要件について

提案：子供が2人いる専業主婦の場合、2人とも保育園に預けることはできるが、1人だけ保育園に預けることはできない。幼稚園がある地域では、幼稚園を利用しながら保育園に1人を預けることができるが、輝北には幼稚園がない。

出産・子育てのために仕事を辞め、その後再就職しようとした場合、パート職員としての雇用が多いが、子供を2人とも保育園に預けるとなると、パート賃金も保育料で消えてしまう。これでは、子育てや仕事に対する意欲も減ってしまうので、例えば、幼稚園がない地域では、保育園に1人だけでも預けられるようにしてもらえないか検討してほしい。

また、上が4歳、下が0歳など年齢差のある兄弟の場合、下が生後6か月になって親が稼働してない時は、保育園から退所しなければならない。母乳育児を推進しているのに6か月で退所は短いのではないか。地域によっては、生後1歳までは大丈夫な場所もある。輝北の地域性に合った子育て環境を作してほしい。

回答：色々な制度の問題もあり、出来る部分もあるし、出来ない部分もある。

回答：保育所と幼稚園の違いを話すと、保育所は、親が見ることのできない子供を入所させる。幼稚園は、3歳以降の子に教育を受けさせるという違いがある。

また、育休期間の部分は市町村でそれぞれ決められており、鹿屋市は近隣の類似団体（他の市町）よりは長い期間でみている。今後、制度を改正する予定なので、更に長い期間にできないか検討したい。

提案：市内の認定こども園の状況は。

回答：現時点で、鹿屋市内で5か所手を上げている施設があるが、輝北地域にはない。

回答：子育て環境が十分でなく、子供が少ないとなると、まちにも何もできないなど、どんどん悪い方向に回るので、そこに歯止めをかけて、この地は子育てしやすいといわれるように、市で手を入れられる部分は子育て世代の要望を聞きながら、積極的に取り組んでいきたい。

4 子供が遊べる公園の整備について

提案：子供たちを公園に連れて行って遊ばせようと思っても、遊具が使える公園がない。昔は町民会館の奥にアスレチック広場があったが現在は藪になっている。総合支所から替わりの施設として輝北ダム公園を紹介されたので、子どもを連れて行ったら、ダム際のフェンスの下に潜ろうとしたり、坂があったりして小さな子が遊ぶのは難しいと感じた。

また、各団地にある公園には多少の遊具があるが、平南市営住宅の公園など遊具の木材が腐っているものや、釘が飛び出ているもの等があり大変危険である。総合支所にも相談したが、分かりましたで話が終って、その後2年も放置された。ケガ人が出なくてよかった。

公園の藪払い等については自分たちでもできるが、公園の設備については難しいので、遊具等について市で整備していただきたい。

回答：今、ダム公園等の現場を見てきたが、地域の皆さんが作ってくれという事で公園を作ったものの、実際はなかなか使われなかったりする。また、町民会館奥のアスレチックも15年程前から閉鎖しており、ここを今から再開する考えはない。

児童が遊べる遊具については、例えば今日会場になっている総合福祉センターのグラウンドに遊具を設置し、遊具や芝生で遊ぶことができれば良いのかなと思うが、グラウンドゴルフの人たちとの調整が必要である。皆さんからの提案とミスマッチであれば意味がないので、場所や遊具の種類について声を聞かせてほしい。

なお、平南市営住宅の遊具については、現在修繕中であり、他の住宅の公園についても現状を確認するよう指示した。

提案：市のHP等でそういった公園がどこにあるか紹介してほしい。うわば公園などの紹介は見るが、観光ではなく、普段遊びに行ける公園も紹介してほしい。転勤をする子育て世代の人たちも知りたがっている。

5 子育てサロン「てるぽっく」への社会福祉協議会のサポートについて

提案：「てるぽっく」は、平成24年12月に社会福祉協議会から声をかけてもらい、平成25年2月に発足した。この立上げに際しては、当初、県の社会福祉協議会の方から県の事業を使ってやってみませんかとの話があった。輝北地域に子育ての支援団体がなかったので、喜んで賛同したが、いざ「てるぽっく」が立ち上がると、後はあなたたちでやりなさいとのことであった。誰か担当のスタッフがいる中でやっていくのかと思っていた。

運営について、今現在、自分達でできることをやってはいるが、今後、自分達の子供が小学生になれば、その後を誰かに引き継いでもらわないといけない。そのときのためにも、市の社会福祉協議会の本所には、定期的な支援やイベント時のサポートなどを含めて、私達と一緒に取り組んでほしい。せっかく立ち上がったので、終わらせるのはもったいない。なお、当初は、社協から2万円の予算をいただいていたが、現在は年間5千円の予算で運営している。

回答：県の社会福祉協議会の方からの話でスタートしたとのことであったが、市の社会福祉協議会の体制としては、立ち上げ時にサポートはあったのか。

提案：てるぽっくの立ち上げの話を持ってきたのは県の社会福祉協議会の方からだったが、その時、輝北の社会福祉協議会のスタッフには話がなく知らなかったそうである。

回答：今後のサポートについては、皆さんが、こんなことをしたいと具体的に相談をいただければ、色々な補助等もあるので、市も社会福祉協議会も対応できると思う。ただし、予算の問題もあるので、皆さんが年間の計画を作られたときに、事前に相談していただければと思う。

回答（センター長）：社会福祉協議会も、場所の提供や人的なサポート等できることはやっていくので、市のサポートもお願いしたい。

回答：市においても、例えば、移動RCが1時間だけだったところを5時間に延長した。社会福祉協議会と一体的に取り組んでいくので、色々と相談してほしい。

（※RCは Raising Children の略で子育て支援の意）

提案：市の総合支所の職員や社会福祉協議会の本所のスタッフも、少しでも顔を出してもらえれば、心と心がつながっている感じがしてそれだけでもありがたい。

いずれ、子供たちが大きくなると、私たちもサロンには来なくなる。市や社会福祉協議会も私たちと一緒に考えてほしい。サロンの継続は母親だけでは難しいので、担当の人たちにもきてほしい。

回答：市の総合支所にも担当がいるので、色々と相談してほしい。

輝北はどうか。色々大変なこともあるかもしれないが、よいところは何があるか。

提案：昔から輝北の人たちは子供たちも含めて結束が強く仲が良い。子供を育てる環境は良いと思う。

回答（センター長）：「てるぽっく」は、皆さんのアイデアで進んでいる。今住んでいる人だけでなく、里帰りや色々な形で子供も帰ってきたりするので、総合支所や社会福祉協議会と良い状態で進めれば良いと思う。この総合福祉センター自体も輝北の良い場所にあるので、全体で盛り上げていきたい。

回答：皆さんは子供をどこで生んでいるか。

提案：市外で生んだ。出来れば知らない場所で生みたくはないが、今、鹿屋で生むのは難しい。ここなら生めるよといった話があればありがたい。

回答：今、鹿屋市内では、4施設で1,600人の分娩をしている。指針では、1人の医師が年150人の分娩となっているが、倍以上の分娩数であり過酷である。色々なリスクもあるので、病院や医師を増やさないといけない。全国的には医師は増えているが、田舎には少なく都会に多い状況である。このことは、今、近隣の4市5町で取り組んでいるが、子供を産む環境と育てる環境づくりを頑張っていきたい。

今日の皆さんとの“本気”で語ろう会でも感じたが、お互いの情報交換や、共有が足りない。私たちもどんどん外に出て行って、お互いに顔の見える環境を築いていきたい。

6 その他

提案：知り合いが、吾平の市営住宅に引っ越しをしたが、雨漏りがあったので総合支所に連絡したところ、なかなか見に来てくれない。雨漏りのある部屋にベビーベッドを置くつもりだった。子持ちの入居を優先している割には、安心して住める場所ではないのではと感じた。

提案：自分も輝北の市営住宅で雨漏りが酷かったので総合支所に言ったが、「あなたの所より酷い部屋もありますよ」と言われた。また、隣の方も修理に4か月待っていたようで、その後住宅から出て行かれた。

回答：市が住宅を提供しているからには、市がきちんとするのは当たり前である。残念なのは、そういった話が私の所までまったくきていないし、職員がしっかりしないと皆さんの市に対する信頼も得られない。話はよく分かったので調べてみる。

提案：4歳と1歳の子がいるが、来年から4歳の子を曾於市の幼稚園に行かせる。そのことで、以前、輝北の総合支所に相談に行ったら、市民生活課、地域政策課と回

され、最後は本庁に電話してくれと言われた。総合支所まで足を運んでも、本庁にと言う。もう少し分かる人にいてもらって身近で解決できるようにしてほしい。

回答：総合支所が分からなければ、職員が本庁に聞いて勉強をするなり、来てもらって勉強すべきであり、市民をないがしろにしたパターンである。業務は色々な分野があり全てを知っている人はいないが、先ほどの住宅の問題も含めて、我々職員の資質の問題なので、市民に対する対応の仕方についてしっかり職員に話をしたい。

提案：保育園が一時あずかりをしてくれてありがたいが、半日子供を預けると 1,000 円。1日預けると 2,000 円費用がかかる。以前は、その半額であったので、費用負担が厳しい。

回答：一時あずかりは、園によって一定ではないので、それぞれ金額等に違いがある。また、値上げについては、保育士も1人で見られる子供の数などに基準があるので、そこあたりの運用上のこともあるのかなと思う。

提案：2人の子供を1日園に預けると 4,000 円かかる。私たちは無職なので、預かってもらえるのはありがたく助かっているが、正直きつい。

回答：今日は、子育て世代の皆さんから色々と実情を聞いて、本当に大変であるのだなと感じた。今の若い人が子供を産まない理由として、経済的な問題があると思うが、生み育てやすい環境整備もトータルで考えていかなければならない。今日は良い勉強になった。